

2017年 バチカンの主な動き

1 国内政治

- (1) 法王は、ミュラー教理省長官の交替、韓大輝(ホン・タイファイ)福音宣教省次官の大使転出などの多くの人事異動を実施したほか、各国に駐在する法王庁大使の人事を扱う部門を国務省内の第3の庁に格上げするなど、バチカン改革を継続させようと努めている。
- (2) しかし、中国接近政策や、離婚者及び性的マイノリティー等への対応に関する法王の改革方針は行き過ぎであるとの不満を持っているカトリック保守派からは強く非難されている。2月には、法王を批判する多数のポスターがローマ市内で貼り出される事件も起こった。その一方で、改革支持派からは改革が一向に進んでいないとの不満が出るとともに、法王による改革への期待がしばみ始めている。

2 対外政策

- (1) 法王は、戦争・内戦、宗教及び民族の対立などでは対話によって解決するように求めている。バチカンは、ベネズエラなどでは積極的に調整役を務め、エルサレムの地位問題では3つの宗教の共存を訴え、核兵器廃絶のためには国連総会における核兵器廃絶条約採決に史上初めて投票(賛成)したほか、バチカンで国際会議を開催するなど、バチカン自身が行動し、影響力を行使した。
- (2) バチカンと中国は、中国における司教任命方式に関する合意に向けて積極的に対話しており、交渉の進捗状況に関する報道もしばしば出ているが、交渉は現在も継続している。
- (3) 2017年には、エジプト訪問(4月)を皮切りに、ポルトガル訪問(5月)、コロンビア訪問(9月)及びミャンマー・バングラデシュ訪問(11~12月)の

計4回の外遊(基本的に、司牧的訪問)を行った。

3 我が国との関係

(1) 2017年には、1～2月にギャラガー外務長官が閣僚級招へいで訪問して岸田外務大臣(当時)と会談し、安倍総理を表敬訪問したほか、2月には高山右近の列福式のためにアマート列聖省長官が、9月にはフィローニ福音宣教省長官が、それぞれ訪日した。一方、我が国からは3年連続で河井総理補佐官(当時)がバチカンを訪問(3月)し、パロリン国務長官、ベッチュ総務長官及びフィローニ福音宣教省長官と両国関係などについて協議した。そのほか、湯崎広島県知事(5月)及び松井広島市長(11月)も一般謁見に参加して、法王に訪日を直接要請した(湯崎広島県知事は、パロリン国務長官への要請も実施)。

(2) 2017年は日本バチカン国交樹立75周年であったため、3月に本使公邸で「茶の湯」デモンストレーションを行ったのを皮切りに、6月には宝生流等との共催でバチカン勸進能を、10月にはパロリン国務長官やギャラガー外務長官、4人の枢機卿ほかの出席を得て75周年記念レセプションを本使公邸で実施し、11月には六本木男声合唱団との共催でコンサートを実施した。そのほか、関係団体と協力して、75周年記念ミサ(パロリン国務長官司式)や75周年記念シンポジウム(ギャラガー外務長官講演)などを実現させた。

(了)